

平成18年度(第44回)越馬徳治科学賞 受賞者・受賞校の業績及び助成校の紹介

1 個人表彰

金沢市立泉野小学校 教諭 中川 岳

金沢市立森本小学校を初任に、同竹又小学校、同長田町小学校、金沢大学教育学部附属小学校、金沢市立中央小学校を経て現在に至る。金沢市奨励研究「ミニプリントを活用した理科授業」やグループ研究「生き生きと活動する子どもをめざして」をはじめ、個人研究や教材開発、執筆活動を積極的に行っている。また、金沢市児童科学教室の指導員を長年に渡って務める一方、科学作品コンクールにおける学校賞の受賞や、エコクラブ全国壁新聞フェスティバルの県代表などに貢献している。

中能登町立越路小学校 教諭 池島 正芳

小松市立木場小学校を初任に、田鶴浜町立金ヶ崎小学校、同相馬小学校、金沢大学教育学部附属小学校、田鶴浜町立田鶴浜小学校を経て現在に至る。越馬徳治科学教育研究奨励「直接経験を重視し、子どもたちが自ら主体的に取り組む理科活動をめざして」をはじめ、石川県理科教育研究大会やJST全国科学技術教員研修での研究発表など、実践的な研究を多く行っている。また、指導した作品が科学作品コンクールなどにおいて優秀な成績を収めており、石川県理科教育研究大会の推進委員なども務めている。

白山市立笠間中学校 教諭 新田町 拳司

金沢市立城南中学校を初任に、同金石中学校、同城南中学校、同高尾台中学校、同港中学校を経て現在に至る。早くから理科教育におけるコンピュータ・視聴覚機器の活用に関して研究を行い、発表している。平成13年には高峰賞学校の部最優秀賞を受賞した。指導面においては科学作品コンクールへの出品の指導を長年に渡って行い、金沢市立城南中学校では生徒を全国審査で上位に導いた。また、白山市学校教育研究会理科部会の研究推進員や白山・石川児童生徒科学作品審査会中学部門の審査員なども務めている。

金沢市立浅野川中学校 教諭 山口 達弘

金沢市立兼六中学校を初任に、同西南部中学校、同高尾台中学校を経て現在に至る。日本地学教育学会「気象分野の指導に関する研究」、「石川の地域自然」教材開発に関する研究プロジェクト「河原の石のふるさとを探ろう」などの研究を行う傍ら、気象予報士の資格を取得するなど積極的に活動している。日頃から生徒の自然への興味を喚起する指導を目指し実践を行い、科学部顧問としてもサマースクール地学巡検「石川の大地のふるさとに触れる」に取り組んでいる。また、石川県理科教育研究大会において運営委員や会計などを務めている。

石川県立金沢二水高等学校 教諭 中村 公弘

愛知県豊田市立朝日丘中学校を初任に、野々市町立布水中学校、野々市町立野々市中学校、石川県立内灘高等学校、同小松高等学校を経て現在に至る。文部省(当時)中学校理科教育課程全国発表会での研究発表をはじめ、北信越理科教育研究大会、石川県理化教育研究大会などで物理分野における数多くの自作教材を用いた演示実験に関する研究発表を行っている。また、科学部顧問として指導にあたる一方、石川県高等学校物理実験書検討委員や石川県高等学校教育研究会理化部会理事なども務め、理科教育に貢献している。

石川県立金沢錦丘高等学校 教諭 捨田利 謙

石川県立野々市明倫高等学校を初任に、同小松高等学校を経て現在に至る。日本生物教育会全国大会での継続的な発表やアジア生命倫理会議での発表など研究発表を積極的に行う一方、生物教育関係の執筆活動にも取り組んでいる。指導面においては金沢錦丘高校生物部を日本動物学会高校ポスター発表の部で優秀賞に導いたり、環境問題や生命倫理についてTV会議を使った日米高校生の交流事業を指導したりしている。また、石川県高等学校教育研究会生物部会理事や教材生物研究委員会代表などを務めている。

2 功労者表彰

穴水町立穴水小学校 校長 橋正 徹

金沢市立犀川小学校を初任に、同野町小学校、穴水町立穴水小学校、同諸橋小学校、輪島地方教育事務所指導主事、穴水町立穴水小学校教頭、輪島地方教育事務所主任管理主事兼管理係長、能都町立鶴川小学校校長、穴水町立穴水小学校校長を経て現在に至る。文部省（当時）奨励研究「穴水町の植物～海岸線を主にして～」をはじめ多くの研究発表や教具の製作指導などを行ってきた。また、児童科学作品コンクールへの参加指導も継続して行い、多くの児童を入賞に導いた。石川県科学教育振興会常任理事をはじめ、多くの委員も務め、理科教育の推進に貢献している。

金沢市立小将町中学校 教頭 富澤 知明

神奈川県綾瀬市立綾瀬中学校を初任に、金沢市立十一屋小学校、同西南部中学校、同紫錦台中学校、同高尾台中学校、同内川中学校教頭、同泉中学校教頭を経て現在に至る。この間、金沢大学教育学部附属教育工学センター研究員としての研究や個人の研究を進め、その成果を理科教育の推進や理科教員の指導に役立てている。「生活の中の身近な理科」をモットーに理科大好きな生徒の育成を行い、生徒科学作品研究発表会への参加指導も継続して行った。また、石川県理科教育研究大会の推進委員なども務め、理科教育の推進に貢献している。

石川県立七尾高等学校 校長 谷口 祐弘

石川県立門前高等学校を初任に、同田鶴浜女子高等学校、同七尾高等学校、同羽咋工業高等学校、同七尾高等学校教頭、同鹿西高等学校教頭、同鹿西高等学校校長、を経て現在に至る。金沢大学科学教育研究室研究員として「動力学の形成過程」について科学史・理科教育に関する研究を進める一方、「ガリレオの生涯」等の翻訳などの活動も行った。また、指導面においては「能登地区高校生のための環境放射能測定教室」の創設と運営に尽力した。石川県科学教育振興会常任理事などを務め、理科教育の推進に貢献している。

3 学校表彰

金沢市立中央小学校 (校長 浅岡 吉宏)

当該校は、昭和62年の開校以来、金沢市児童科学教室の会場校として、児童の科学する心を育む拠点となってきた。また、学校独自の取り組みとして、夏季休業中には科学研究や発明工夫作品に関する相談会を開催している。その成果として、石川県児童・生徒科学作品コンクールにおいては県知事賞をはじめ数多くの受賞者を輩出し、全国児童才能開発コンテスト科学部門でも平成15年度文部科学大臣賞などを受賞している。また、平成8年に創意工夫育成功労学校表彰で科学技術長官賞、平成17年には全国児童才能開発コンテスト科学部門で学校奨励賞を受賞するなど、科学研究活動が活発である。

中能登町立鹿西小学校 (校長 土屋 健次)

当該校は、平成17年4月に能登部小学校と金丸小学校が統合して開校した。前身の能登部小学校からの精神を受け継ぎ理科・算数科を中心とした授業研究が推進されている。学校ぐるみの研究活動として、石川県学力向上フロンティアスクール事業では理科における少人数授業の取り組みを中心に全職員で理科・算数科の授業研究を推進している。また、科学技術振興機構指定の理数大好きモデル地域事業では科学館等の施設を利用した体験学習や理数大好き授業研究の取り組み、その他にも金沢大学の「ふれてサイエンス」への参加、科学実験サポーター事業の活用など積極的に児童の学びの機会を作り出す工夫をしている。

金沢市立小将町中学校 (校長 小川 栄子)

当該校は、平成12年に金沢市中学校教科指導法開発校の指定を受けて以来、「自ら学び考える力を育てる」という方針のもとに理科教育を行っており、平成15、16年には高峰賞を受賞している。夏季休業中には課題研究のテーマ設定や研究方法の指導を行い、石川県児童生徒科学作品コンクールや石川県発明くふう展などにおいて多くの入賞者を出している。理科の授業では、全学級でTTによるきめ細かな指導を行い、公開研究授業による教師の授業力の向上にも努力を重ねている。また、金沢市子ども科学財団サイエンスクラブの事務局を置くなど理科教育の拠点校としての取り組みも行っている。

石川県立七尾高等学校 (校長 谷口 祐弘)

昭和43年の理数科設置以来、科学系部活動は傑出した活動を継続しており、平成16年のスーパーサイエンスハイスクール指定後は、取り組みがさらに活性化している。天文分野では、長期にわたる黒点観測、流星群の電波観測、穴水ローエル祭への参加などの研究活動・普及活動を行っており、研究成果を高校生天体観測ネットワーク全国フォーラムなどで発表している。また、化学分野では、環境ホルモンの測定を継続しており、全国高校化学グランプリには毎年参加し、平成15、18年には銅賞を受賞している。生物分野では、石動山の植物・薬草調査を継続しており、植物図鑑を作成発行するとともにその成果を学会で発表している。

4 学校助成

小・中・高等学校をつなぐ理科教育を積極的に推進している学校への助成金交付。
平成19年度の石川県理科教育研究大会（奥能登大会）会場校に交付する。

能登町立宇出津小学校 (校長 喜多 文男)

能登町立能都中学校 (校長 山田 良憲)

石川県立能都北辰高等学校 (校長 片山 新次)